「第17回ゆずり合い　助け合い　学び合う会」平和宣言

阿波根昌鴻さんは農民学校を作ろうとしていました。そこで教える先生は全国からも海外からも来てもらって、自分は小間使いとして働くと言われましたが、戦争とその後の土地接収によって、その夢は途中で止まってしまいました。その上、最愛の家族を亡くし学校もなくしたのです。どれほどの思いをされたでしょう。

今、ここにいる私達はいろいろな出会いの中から、阿波根さんたち伊江島の人々の非暴力の精神を学ぼうと集まりました。

「相手の立場に立って相手の幸せも思う」精神と、「自分たちが学び暴力的な米軍を教え諭そうとした」知恵、そして「決して焦らず、長い年月をかけてするつもりでやる」という覚悟から作られた団結道場が、全国からの寄付で改修され、あらたな役割をもつようになりました。

また、阿波根昌鴻資料２の「陳情日記」では、土地も家も取られた島の人々が、あの手この手を使い、必死に事実を伝えようとした記録を、これも全国からの寄付によって世に出し、今につながる歴史と先人たちの行動を知ることが出来ました。

高江の世界に誇る自然のど真ん中にオスプレイパッドができ、辺野古の美しく豊かな海に土砂が投入され、伊江島の広大な農地で新たな米軍機の演習がはじまった今、伊江島の人々が暴力を振るわれながらも立ち向かった時代と何が変わるでしょうか？

ここに集まった私たちは、これまでも座り込み、勉強会、討論会、陳情、執筆、署名活動、行進、県民投票、などそれぞれが知恵を出し合い立ち向かってきましたが、今回の学習会で、その源流となる精神をあらためて学び、参加者同志の出会いをより深めることができました。これらは、阿波根学校とも言える今回の学習会の成果であり、今後「ゆずりあって、助け合って、学び合って」生きるための新たな一歩となるでしょう。

この美しい自然をもつ沖縄に、殺人のための米軍基地があってよいわけがない。県民投票結果を無視するような政治家が、政治を握っていていいわけがない。先人たちの残された軌跡から学び、全ての人にとって「平和」な世の中が来る日まで、それぞれの場で行動し、進んでいくことを誓い、宣言といたします。

2019年3月3日

第17回ゆずり合い、助け合い、学び合う会参加者一同